

「釈迦に説法」

そもそも『認知症』とは、介護保険法第5条の2にはこう記されている。脳血管疾患、その他の要因に基づく疾患。複合した認知機能の障害をいう。これを引き起こす原因疾患が病名となっている。記憶機能および、その他の認知機能が低下した状態を示す。発症すると、これまでできていたことができなくなり、日常生活が困難になっていく。

つまり、認知機能をどうやって支えるか、応援するかが大切。認知機能やその他の身体機能が低下していくことを、どう見極めてささえるか。その人が不適応な状態にならないように、居宅で生活を応援するのが本来のやること。さまざまな不自由に照らし、それぞれ異なった支援が必要だ。

専門職の役割は「人の生活の営みの中で起こる変化」を知り、経験し、感じ、気づくこと。健全な生命活動の支援に繋げていくことだ。「認知症の理解」も大切だが、その前に「人の営みの理解」が先になる。

今までできたことができなくなると、「良い状態」に持っていこうとするのが人間の本能という性質。100人が100通りの、

良い状態に持っていこうと試みる。生きるとはそういうことだと思う。時に、その持っていく方が、認知機能の変化が伴うことにより、歩き回る、大声や乱暴するなどの行動として表れる。それらの言動は、不適応な状態にあるというメッセージだと僕は思う。

認知症とは何かを理解しているだけでは駄目で、生活のどこに影響するかを分析する力がないといけない。そこで、在宅生活を応援する仕組みを確立させる必要がある。そのキーワードが「仕掛け」。



身体的能力が衰えても、その人の能力に応じた「仕掛け」を用意することで、生活を継続できる人もいる。その可能性を諦めないでほしい。そもそも認知症ケアとは、人が人として営む能力をどう支えるかなのだから。

一般社団法人
北海道認知症グループホーム協会
会長 宮崎直人

「グループホームのしごと」の啓蒙活動を！



グループホームの仕事ってどのようなもの。グループホームってそもそもどんなところ。聞いたことはあるがよく知らない方が地域にはたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。当協会では北海道の介護のしごと魅力アップ推進事業の助成を受けて啓蒙用のDVDを作成いたしました。グループホームでの利用者さんの暮らしとそこで働く職員の姿を紹介しております。それぞれの地域の中学生、高校生の方に知ってもらい就活の参考にしてもらいたい。職安や住民の方に紹介してもよい。会員にお配りしたDVDをグループホームの啓蒙活動に使っていただきたい。お問い合わせは本部事務局まで。

厳しい暑さが続いておりますが皆様お元気でしょうか。広報誌「大空と希望」第14号をお届けいたします。編集作業が終わり締め切り日から開放されほっとしています。いつも原稿が遅れ気味でしたが、事業委員会委員や投稿して下さった皆様のおかげで無事終えることができました。改めて、お礼申し上げます。理想の広報誌と現実の力量との狭間で悩みつつ何とか送り出すことができました。先回同様、早川浩士先生、藤川幸之助先生のコラムはお休みとさせていただきます。関係者の皆様のご協力ありがとうございました。

編集後記とさせていただきます。 小原陽一

大空と希望



No 14

一般社団法人北海道認知症グループホーム協会
広報誌「大空と希望」 2016年8月発行
〒060-0001
札幌市中央区北1条西7丁目 広井ビル3F
TEL: (011) 208-3320 FAX: (011) 204-7312
URL <http://h-gh.net>

「グループホームの人財は」

今 グループホームの人財は恵まれていますか？

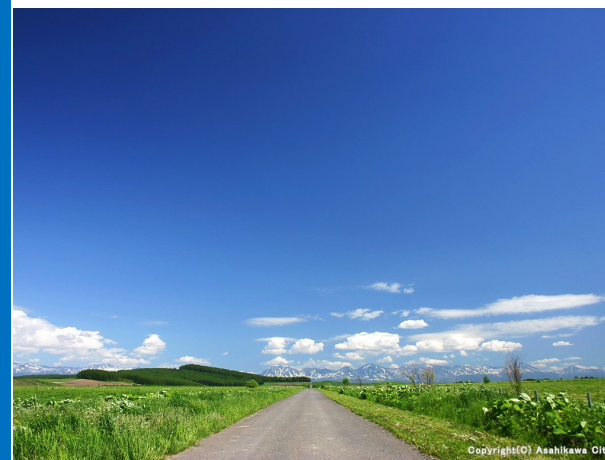
始めまして、私は株式会社IDO（介護事業運営のコンサルティング、研修講師派遣と従業員のメンタルヘルス事業）で様々な介護事業所、施設にお伺いし、現状の問題についてご相談を受けるべく現場に赴いております。

さて、GHの運営課題は様々ありますが、最近のトップ3をあげるとすれば以下の3つが考えられるのではないのでしょうか。

- ① 介護人材の不足
- ② 職員のモチベーションマネジメントの難しさ
- ③ 職員同士の人間関係

数年前は、認知症の形態別理解やアプローチなど、「認知症を知る」「その人を知る」といった具体的なケアに必要な課題をどのようにすべきかなどの相談が多くありましたが、最近は少なくなりました。

上記にあげた3つは互いに強い関連性を持っており、①～③のどれか1つに問題が発生すると、ドミノ倒しのように問題が拡大する傾向があります。



それでは、どのようにして行けば良いのでしょうか。①については不足の事態を招かないための「定着」と「言語化や感動が持てるホームの魅力」を創ることが必要です。次に②ですが、モチベーション、つまり、この仕事に対する動機づけが何によって起きているのかということを自分はもちろん、他のスタッフが知っていることが求められるのです。また、外発的な動機づけとして「なるほど、確かに」という納得から繋がる学びや気づきも良い効果があります。

最後に③の人間関係です。最近介護に必要な倫理観を学ぶ機会がないまま採用後に問題が発生することも少なくありません。人間関係は退職の直接要因になる訳ですが、多くの職場では「自分で精一杯」というゆとりのなさや、思いやりのなさなどが根底に存在するとともに、個々の基本コミュニケーション能力の低さ（知識不足）と、勤務が回っていることを前提に「自分は出来ている」と自己評価を高くもつ傾向があり、賃金や休日に対する不満を持つ直接的要因になることがあります。

北海道も人材不足が深刻化してきています。GHがあるべき姿について語り合える関係づくりを大切にしましょう。

井戸和宏

株式会社IDO 代表取締役
NPO法人Link・マネジメント代表理事
ルミナス株式会社役員兼運営統括部長
日本社会事業大学専門職大学院ビジネスマネジメント修士
社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、認知症ケア上級専門士、
厚生労働省認定認知症介護指導者

「認知症の人を支えていくための知識と意識」 北海道認知症地域コーディネーター

弊社において、介護事業所の職員を対象に「認知症の人を支えていくための知識と意識」というテーマで勉強会を開催し、その勉強会の講師を北海道認知症地域コーディネーターに依頼しました。

コーディネーターに講師を依頼した理由は、1つ目に僕もコーディネーター養成講座を受講させて頂き、この人達なら「どんな時も一緒に考え、解決も失敗も共有してくれる」「やる時は熱く真剣に取り組んでくれる」ことを知れたこと、2つ目にはコーディネーター養成講座の内容がとても充実しており「センター方式の使い方と活用方法」「認知症の人を支える家族のこと」弊社勉強会のテーマにもなった「認知症の本人を支えること」など充実したプログラムだったことが講師を依頼した理由です。

各地域での勉強会について振り返ってみると、それぞれが養成講座で得た力をフルに発揮し、緊張される事も無く、もっと聞いていたいと思わせる内容に「さすが！神ってるなあ～」という印象しか残っていません(*^_^*)

今回コーディネーターの皆さんとは、勉強会という形での関わりでしたが、今後は事業所で困った時に、その地域にいるコーディネーターに関わってもらったり、運営推進会議に出席をお願いしたりと、気軽に関わりを持たせて頂ければと思っています。

皆さんも是非1度、熱く語り合うことができ、共に成長する事ができ、友達感覚で肩の力を抜いた仲間になれる集団、認知症地域コーディネーターズとの関わりをお試し下さい。

最後になりましたが、ご協力頂いた皆様にあらためて感謝の言葉を伝えさせて頂きたいと思えます「アモレ」本当にありがとうございました。
一般社団法人ふれあいネットワーク
堀川智幸

認知症地域コーディネーター養成研修を終えて早5年。さしたる活動実績もないまま肩書きだけが重くのしかかる中、同じコーディネーター仲間である堀川さんより社内研修をしてほしいと依頼があり、私だけではなく、ほかのコーディネーターの仲間も快諾。日頃からの繋がりを感じた。私は寿都町での依頼を受け、出来はわからないが皆様の真剣な学ぶ姿勢にこちらも刺激を受けた。今後も地域での生活支援を微力ながらサポートし

ていきたい。
日胆ブロック
グループホームアウル 登別館 石川 哲也

今回、勉強会のお手伝いをさせていただき、自分自身が大変勉強になりました。普段言葉で伝える事がうまくいかない事が多いので、思い切ってみなさんの前でお話ができ良かったと感じました。内容としては、十分に伝えられたか疑問に残りますが、今皆さんが大変な思いで仕事をしているという事が、共有できたらよいかと思っていました。

最初は誰でも、認知症の人に対して、手探りであったり、わからなくて壁にぶつかってしまうと思います。そこから、前へ行くか、後ろへ行くかは、職場の環境かなと思います。

今回は、貴重な体験ありがとうございました。
グループホームゆうあい
管理者 高橋 重幸

内容は釜谷先生の講義内容や資料を活用させていただきました。緊張しながらであり余裕はありませんでしたが、講義中は受講者の表情、特に投げかけた際の表情に注意しながらお話をさせていただき、受講者としての経験はもとより、事務局で感じていたものを活用出来たのではないかと思います。もちろん未熟な講師ではありませんが・・・。
仲間のおかげで素敵な機会をいただき、これが多分私の未来の大きな一歩になると思っています。あらためて仲間のありがたさなどを感じた時間になりました。

高齢者グループホームみずばしょう
荒川 裕貴

この幅広いテーマの中で、どのような事をお話したら良いのか開催直前までいろいろと考えた結果、自分達がグループホームで常日頃している認知症の状態にある人の支援についてお話をすることで、そこに何かしら感じるものや共感していただけることで、今後の仕事の励みや活力になればと思ってお話をさせていただきました。自分で研修の内容を考え、それをお話しすることの難しさ、そして何よりもこのような機会を下さったことで、自分自身の仕事に対する自信に繋がったことを



各ブロック研修 日程と開催都市

事業委員会担当

ブロック	時期	開催地	事業名	講師
札幌	平成28年9月2日	札幌市	癒されませんか？Part4	宮崎直人氏 吉川よしひろ氏
道央	平成28年5月10日終了	恵庭市	新人・中堅スタッフスキルアップ研修（人権擁護編）35名	石川秀也氏
	平成28年9月14日	恵庭市	チームケアの向上の為の伝達方法	釜谷薫氏
道南	平成28年12月6日	函館市	計画作成担当者研修	釜谷薫氏
日胆	平成28年11月11日12日	苫小牧市	実践者研修修了者フォローアップ研修	宮崎直人氏 釜谷薫氏 吉田恵氏
十勝	平成28年9月16日	帯広市	「もう一度グループホームの役割を考えよう」研修	宮崎直人氏
道東	平成28年10月28日	釧路市	認知症基礎研修	佐々木幸子氏
道北	平成28年5月11日終了	旭川市	高齢者虐待はなぜ起こるのか88名	石川秀也氏
後志	平成28年9月16日	小樽市	「ケアプランに基づく記録の方法」研修	小林大祐氏
オホーツク	平成28年5月26日終了	北見市	認知症介護研修 60名	村越洋子氏

研修委員会担当

ブロック	時期	開催地	事業名	講師
空知	平成28年8月24日終了	滝川市	家族の声が聞こえていますか？「N・k・k・meeting」「認知症を支える」・「家族の想いを」・「考える」・「ミーティング（会議）」	菅谷清美氏
	平成29年2月	岩見沢市	日常生活リハビリ研修	菊地伸氏

実践者、管理者、実践リーダー研修 日程と開催都市

認知症介護実践研修 (実践者研修)

第1回(札幌市) 終了 参加数39名
平成28年5月17日～6月14日
第2回(旭川市) 終了 参加数88名
平成28年6月21日～7月19日
第3回(苫小牧市)
平成28年9月6日～10月4日

認知症対応型サービス事業 管理者研修

第1回(札幌市) 終了 参加数33名
平成28年6月14日15日
第2回(旭川市) 終了 参加数49名
平成28年7月19日20日
第3回(苫小牧市)
平成28年10月4日5日

認知症介護実践研修(実践リーダー研修)

第1回(旭川市)
平成28年9月26日～11月21日
第2回(札幌市)
平成28年10月24日～12月19日



日程等変更になる場合がございます。詳しくはHPをご覧ください。

その他の研修 日程と開催都市

自主研修シリーズⅠ(札幌市)
「グループホームの原点～未来へ～」
宮崎直人氏 武田純子氏
平成28年7月5日(火)6日(水)
終了 参加数84名

自主研修シリーズⅢ(札幌市)
「グループホームで看取る」
長尾和宏氏 釜谷薫氏 西塔昭代氏
平成29年1月28日(土)29日(日)

自主研修シリーズⅡ(札幌市)
「アセスメントとケアプラン」
釜谷薫氏
平成28年11月24日(木)25日(金)

認知症介護基礎研修(札幌市)
第1回平成28年12月1日(木)
宮崎直人氏
第2回29年2月21日(火)
釜谷薫氏

「認知症の人を支えていくための知識と意識」 北海道認知症地域コーディネーター

実感しております。自分自身が、人の支援に対していつも模索して自信を失うことがあり、もっともっと勉強し日々精進する必要である身でありながら、このような機会をいただき、自分自身の仕事に対するモチベーションの向上ができましたことに感謝いたしております。

グループホーム こもればの家

河田 光博

研修のテーマに沿った講義を行う中では、介護実践に活かして頂ければという思いや、自分自身の実践も踏まえたことが伝わるように意識し、改めて伝えることの大切さを学ぶことができたと感じております。

今後も、地域の認知症介護の向上を目指した活躍となるよう、今の自分にできることを続けたいと思っています。

特定非営利活動法人NPO社会福祉振興会
グループホームななかまど 湯沢 佳彦

様々な人との出会いや経験の中で、管理者と言う立場になってからは特に人に伝えることの難しさを痛感していた私ですが、勉強会の当日は、職

員の皆様が非常に真剣に聞き入って下さったことや、周囲の方々が色々ご配慮下さったことで、大方練習通りに話すことが出来ました。今回の勉強会を通じて、改めて人に伝える事の責任の大きさと難しさを感じ、緊張の中でも自分にとっては大変貴重な時間となりました。お声を掛けて下さった堀川さんはじめ、(社)ふれあいネットワークの皆さんには心より感謝申し上げます。そして、認知症地域コーディネーターとして、学んだ事を少しでも還元できるよう今後も積極的に活動したいと思っています。

グループホーム 風車の家

数馬 愛子

全道のコーディネーターが、同じ課題でそれぞれに研修を行うと想像しただけでドキドキワクワク…共に学び、共に汗を流し、共に喜び合える仲間。そして、自分自身もその一員でいられることが誇らしい…

離れていても、大切にしたい人がいる、力になりたい人がいる、信じ合える人がいる幸せ。ありがとうございます コーディーズ♡アモーレ！

「繋がりながら見えてくること」：道北ブロック

今年も6月17日第3回オレンジRUN旭川が開催されました。点から線へそして市内を面で繋ぎたい想いで各包括支援センターを中心に協力して頂き、ゴール市役所を目指し走らせて頂きました。メインランナーは包括支援センター職員で地域の拠点協力の事業所を回りながらの会話はきっとこれからの地域包括ケアに良い影響を与えること



でしょう。旭川には11か所の地域包括支援センターがあります。毎年各包括にタスキを繋げて旭川市内をオレンジカラーの想いを染めることが出来たらと思います。開催を危ぶまれた天候でしたが晴れ間段々増えて行き笑顔も増えてゆきました。やはり今年も着ぐるみのあさっぴーは大人気。「また、来年も会いたいね。」と話されていたお年寄りの言葉重く熱く響きました。そんな想いを参加した誰もが感じられるこの繋がりが……。職種の枠を超え集うこの繋がりが……。それぞれ一人ひとりにきっと何か見えていると思います。そんな集いの中で道北ブロックも善き繋がりを大切にしたいと思っています！

そんな繋がりの中で、小さな想いは明るい組織が頑張っています。それは協会主催のリーダー研修受講生たちが事業所の枠を超え組織されました。「アスターフォーラム」と言



います。自主的に立ち上がり、研修事業に力を入れているブロックとしては大変嬉しい限りです。オレンジRUNでもあさっぴーの大役を受けてくれました。また、今年の実践者研修、管理者研修、リーダー研修開催のお手伝いも手を挙げてくれました。今後道北ブロック事業で育った皆さんと共にあらたな繋がりを感じ合いながら歩んでゆけたらと思います。人材不足、虐待、介護報酬マイナス、介護殺人など私たちの周りで気持ちが折れそうな言葉も飛んでいます。どんな状況であっても「未来」はあるはず。 「ちから」を求めではなく「知恵」を出し合い、「人」を分かり合える繋がりを大切に想っている協会で行動してゆきたいと思っています。

道北ブロック 会長 西塔 昭代

平成28年度事例研究大会in釧路 開催 「おたがいさま～支援は いつでも どこでも 誰にでも～」

<講演会>

日時 平成28年10月30日(日)
15:00～17:00

場所 ANAクラウンプラザホテル釧路 (3F万葉)

講師 加藤忠相氏((株)あおいけあ代表取締役)

演題 「現時点でのCAREとはなにか～社会資源であるお年寄りが地域を創る～」

<交流会>

日時 平成28年10月30日(日)
18:00～20:00

場所 ANAクラウンプラザホテル釧路 (3F万葉)

会費 5,000円



<事例発表会>

日時 平成28年10月31日(月) (9:30開場) 10:00～15:00

場所 ANAクラウンプラザホテル釧路 (2F芙蓉・3F万葉1・3F万葉2)

〒085-0016 北海道釧路市錦町3-7

TEL:0154-31-4761 FAX:0154-24-7402

参加料 無料

主催 (社)北海道認知症グループホーム協会 道東ブロック

共催 (社)北海道認知症グループホーム協会



お問い合わせ：大会事務局 グループホーム はるとり 水谷

TEL:0154-41-0206

E-mail: hirononnon@amail.plala.or.jp

詳しくは(社)北海道認知症グループホーム協会のホームページをご覧ください。

北海道にもやっと夏が来て、暑さに耐える時期になりました。道東は北海道の中で涼しく住みやすいのが一つの特徴です。そんな道東の秋に釧路市で28年度実践研究大会を開催することになりました。会場はANAクラウンプラザホテル釧路、日程は基調講演・懇親会10月30日日曜日実践事例研究発表を



10月31日月曜日と決まりましたので、皆さんの事例研究の参加をお待ちしております。皆さんのご苦労や成果の発表の場とし他の事業所の皆さんに参考事例として教えてあげてください。また事例を聞いた皆さんは、これからのケアの参考になる様に持ち帰っていただきたいと思います。皆さんが知っている道東の釧路は霧の町というイメージでしょうが最近気候の変化で霧も余り出

なく暖かい環境です。道東ブロックは釧路・標茶・鶴居・弟子屈の町を囲んだ中に釧路湿原があります。釧路・厚岸・根室・羅臼には新鮮な海の幸と観光をするところがいっぱいです。また近郊では阿寒湖畔や川湯温泉・摩周湖・屈斜路湖・道東の中心には中標津・別海があり人口より牛が多く、そんな環境の中に道東ブロックが有りますので、是非この機会に道東に来てください。きっと最高の思い出になる事間違いありません。道東ブロックの実行委員会、全員で皆様のお越しをお待ちしております。詳しくは北海道認知症グループホーム協会のホームページに記載されておりますのでご確認ください。

実行委員長 板谷俊英

『家族の声が聞こえますか』 :空知ブロック

家

族の声が聞こえていますか・・・？

「N・K・K・Meeting」「認知症を支える」「家族の想いを」「考える」「ミーティング(会議)」空知ブロックでは、介護事業者は基より一般市民も参加しての「N・K・K・Meeting」を8月24日に開催いたします。「家族の想いを聞いていますか」と尋ねると、何処のグループホームも「工夫しながらご家族様の想いを聞かせて頂いております」と答えが返ってきます。「全てお任せいたします」「大変よくやってくれています」「こんなに親身になって接してくれている所はありません」などなど事業所に対するお礼やお任せする言葉になっているのではないのでしょうか？これは少なからずとも年寄りを預けている何か言ってお出されたら大変だ とのご家族様の想いもあつての発言ではないのでしょうか？世話をする → やってやる = 介護 の時代から自立支援 = 介護 の時代になりました。しかし、「施設に入っておむつが外れたけど、外泊した時にしょっちゅうトイレに行かせなきゃならないから疲れた」とのご家族様の声を聴いたことがあります。自立支援 = 介護者の自己満足 になっているのではないのでしょうか？虐待と自立支援は紙一重との声も聞こえます。

家族の想いを現実化して行けるのが我々グループホームの本来あるべき姿だとも考えます。今こそご家族様の想いを聞いてそれを実現できるきっかけになればと思いますこの「N・K・K・Meeting」開催することになりました。今回の「N・K・K・Meeting」は、包括支援センター様認知症の人と共に歩む家族の会様等々のご協力の下ご家族様の本音の声を集めてMeetingを行います。

皆様のお手元にこの大空と希望が配布される時には「N・K・K・Meeting」が終了していると思いますが、今回の「N・K・K・Meeting」がご家族様の想いを現実できる第一歩になり、来年以降もグループホームの人だけではなく認知症の方のご家族様や一般の方からも様々な想いや考えを聞かせて頂ける空知ブロックになれるようブロック活動を続けて行きたいと考えております。今回は空知ブロックの活動の一つを紹介させていただきます。

空知ブロックの事務局
グループホームコスモス高橋

「横の繋がりを一つに」:オホーツクブロック

はじめまして！オホーツクブロックで今年度から事務局を担当しております。初めての事なのでみなさんに協力を得ながら奮闘しております。この地域は海沿いと内陸に分れた地域で温度差も夏冬通して差があります。ただし人間の温かさは差がないと思っております。今年度は早々に研修会を開催しました(5月開催)。「認知症状の見られるお客様への対応技術演習」と題して現場においてコミュニケーションが難しくなった人への技術を取得する近道とした目的で開催しました。定員50名のところ71名とたくさんの方が受講して頂き、それだけコミュニケーションが難しくなった人への対応が大変なことと感じております。講師には特養で介護教育指導をしております村越洋子様にお願



いしました。最初はアイスブレイクから始まりましたが、少し時間を掛けコミュニケーションを図り盛り上がりからの講習となりました。講習内容もほとんど実技で車椅子とベッド上での介助方法や歩行支援、拘縮予防のポジショニングやシーティングといった姿勢についても学びました。参加者からのアンケートでは、初心に戻ることができた、楽しく学ぶことができたなどの意見を頂きました。今後もみなさんが充実した研修を受けられるように企画していきたいと思ひます。今後としては、介護職員処遇改善加算の不正受給を受けて厚生労働省は各自治体に指導を徹底する方針を発表したことから会員の皆様に制度の再確認と情報交換を労務士の先生を招き開催する予定です(7月下旬)。また、キャリアパス支援事業で2回の研修を予定しております。現在オホーツクブロックは42の事業所が会員になっております。この42の事業所がしっかりと横の繋がりを一つにできるようなブロック活動を目指し、スタッフ交流会、経営者・管理者交流会を始めいろいろな展開で情報を共有出来るよう目指してまいります。